

Title	古墳とタブー
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1937
Jtitle	史学 Vol.16, No.2 (1937. 6) ,p.110(274)- 110(274)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19370600-0110

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

古墳とタプー

近時神奈川縣の日吉附近に優秀な遺物を出だす古墳群が存在してゐることが知られたことは學界の驚異である。然し問題は尙何故これだけのものが今まで知られずかつ今まで破壊せられず保存せられてゐたかといふことである。新篇武藏風土記稿橋樹群卷八矢上村の條に舊跡館趾をあげ、「村ノ中程熊野社ノ後背ノ陸田ノ邊ナリ則前條ニシルセル保福寺ヲ建立セシ中田加賀守カ住セシトナリ今コ、ニウツ木ノ一ムラナセル所アリ是加賀守カ先祖ノ墳ナリト土人此木ニフル、コトアレバ必奇病ヲウルトテ近クヨルモノナシ此地ハ百姓武右衛門ト云モノ、持ナルカ彼ノ先祖ハ渡邊何某トテ加賀守カ家士ナリシト云」と記してをる。此古墳は恐らく三田史學會が先年調査した第三號墳を指すのであらう。手を觸れば祟るとして土地の人が之にさはらなかつたことは古墳の史蹟としての保存を暗黙裡に實現した事であり、迷信の效用と云つてよいであらう。支那の「禁」と云ふ文字が林に従つてをる様に支那でも最初の禁令は聖地たる林叢に對するタブーから發してゐたらしい。此三號墳が中田加賀守の祖先の墓であると云ふ風土記の文句は勿論荒唐無稽な話ではあるが之は此古墳發掘以後中田氏の遺族が祟を受けたと云つて學校に嚴重な抗議をなし、遂に遺族側と學校とで人夫を半分づゝ出して之を埋め、祀りをなしたと云ふナンセンスを生んでをる。今度史學會の調査した加瀬山第六天古墳も祟るものとして土地の人は大分恐れてゐたらしい。かういふ事が今まで古墳保存の實を擧げてゐたことは一面から云へば悦ぶべき事であつた(松本信廣)。